

弁才天坐像

重要文化財
木造 彩色
像高 95.8cm
鎌倉時代
(文永3年:1266)
神奈川 鶴岡八幡宮



二臂で琵琶を抱え、両脚を左にくずして坐る女神形の像。上半身は裸形で、下半身に腰布を巻くところまでは木彫で造られ、その上に布製の着衣を着せる。いわゆる裸形着装像の一例であり、この種の遺品は、平安時代にも若干の作例が散見するが、その流行期は鎌倉時代であり、鎌倉周辺には本像のほかにも、青蓮寺弘法大師坐像(鶴岡八幡宮旧蔵)や江島神社弁才天坐像等がある。

右脚底部に刻まれた銘文により、本像が中原光氏を願主として文永3年に造立され、八幡宮内にあった舞楽院に安置されたことが判明する。中原光氏(1218~90)は鶴岡八幡宮楽所に所属する楽人であったことが諸種の記録によって知られる。光氏が願主となって制作され、かつ舞楽院にまつられた本像が、音楽を司る尊像として信仰されたであろうことは疑いない。

現在の像表面の白い彩色は明治に施された後補の所為とみられ、当初はもう少し暖かみのある白肉色の彩りであったかとも想像される。裸形の写真を見ると、いかにも女性らしいふくよかな肉取りである。実人的な面貌には鎌倉時代後期の作風が顕著にあらわれている。

江戸時代には鶴岡八幡宮境内の源氏池(源平池内)にあった旗上弁財天社に奉祀されていた。

展示品の みどころ

地藏菩薩坐像

神奈川県指定文化財
木造 彩色
像高 84.1cm
南北朝時代(永徳4年:1384)
神奈川 来迎寺



時宗に属する満光山来迎寺に祀られるが、造像当初は関東管領上杉能憲が建立し、義堂周信を開基とした報恩寺の本尊であったと考えられる。

江戸時代に行われた修復の際に像内に銘記が認められ、ここには像が絵所託問浄宏の作であり、上杉能憲のために造られたということが記されていたという。この所伝は、関東大震災の折りに確認された寛永17年(1640)の修理銘札に「□(本)尊建立作者托問法眼札有之、永徳四年造立見タリ」と明記されていたことにより、裏づけられた。

永徳4年は上杉能憲の7回忌の年であり、本尊造立の契機としてふさわしく思われる。なお託問浄宏は、平安時代末頃から活躍した絵仏師の代表的な一派である宅磨派に属すると考えられる。本像の作者として名が登場するものの、絵仏師であることを重くみれば彩色を担当したかとも推測されるが、近世の記録には仏工としての活動も伝えられる。

本像は如来と同様の着衣形式を見せ、腹前で定印を結ぶ姿である。あるいはかつて掌上に宝珠を載せたかもしれない。このような如来風の服制の地藏菩薩像も、中世にはいくつか遺例が散見する。また本像はその衣服を長く台座から下方に垂下させる点に表現上の特徴があり、本展出陳の光厳寺釈迦如来坐像(建長寺旧蔵)とともにこの種の代表的遺品として記憶されよう。

岩田 茂樹(当館学芸部上席研究員)

◆特別展「武家のみやこ 鎌倉の仏像 - 追真とエキゾチシズム -」にて展示

開館日時(4月~6月)

■開館時間

午前9時30分~午後5時
・4月25日(金)以降の毎週金曜日は午後7時まで
※いずれも、入館は、閉館の30分前まで

■休館日

毎週月曜日(4月28日、5月5日は開館し、
5月7日(水)は休館)

■無料観覧日(名品展のみ)

5月5日(こどもの日)と5月18日(国際博物館の日)は、名品展の観覧料が無料となります。

観覧料金

特別展「武家のみやこ 鎌倉の仏像 - 追真とエキゾチシズム -」

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,300円	800円	500円
団体・前売	1,100円	600円	300円

※団体は20名以上です。※前売券の販売は4月4日(金)まで
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※特別展観覧料金で名品展も観覧できます。

名品展

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、
障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。



[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

